

人権週間 ～ 思いやりのある学校 ～

人権週間に合わせて、人権に関わる学習や児童一人一人との教育相談、「咲いたよ！人権の花」の作成等、様々な取り組みを行いました。児童の人権意識の高揚はもちろんのこと、教職員が人権を大切にしたい学級経営の見直しを図り、児童との信頼関係を築いていきたいと思っています。ご家庭でもお子様の学校生活について話題にさせていただき、心配なことやご不明なことがありましたら、遠慮なくお問い合わせください。



【咲いたよ！人権の花】



【人権標語となかよしこぼし】

校内読書週間

図書委員会が、テレビ放送をしたり掲示物を作成したりして、おすすめの本の紹介（低学年・中学年・高学年向け）をしました。また、好きな本のアンケートを実施して結果を伝えたり、朝の時間に1～3年生とひかり・こだま学級で、読み聞かせを行ったりしました。こうした取り組みにより、読書に興味をもった児童がたくさんいたのではないかと期待しています。なお、引き続き読み聞かせボランティアの方が毎月読み聞かせをしてくださっています。事前に子どもの興味・関心の高いと思われる絵本を選定し、表現方法を工夫しながら練習したうえで、ボランティア活動を積極的に行っていただいています。子どもたちは、月1回の読み聞かせをとっても楽しみにしています。



【おすすめの本の紹介】



【図書委員による読み聞かせ】



【ボランティアによる読み聞かせ】

学習アラカルト

市立図書館の見学<2年生>



【館内の工夫さがし】

施設の様子や貸し借りの仕方などについて学びました。これからしっかりと利用してほしいと願っています。

スーパーマーケットの見学<3年生>



【ハピーズ店内の工夫さがし】

お店の工夫や働く人の努力などをしっかりと観察したりお店の人に尋ねたりしながら、気付いたことや教えていただいたことをメモに取って学習を深めました。

<番町地区防災教室実施>



【体育館でHUG訓練】

12月3日(日)に、災害時に避難所におけるスムーズな運営ができるように、HUG(避難所運営ゲーム)を行ったり、問題点を話し合ったりして、防災の知識及び地域の連帯意識を深めていました。

「明るい家庭づくり」作文 優秀賞受賞

山本さん 「とうちゃんとおら」

中上さん 「大切な田んぼ」

笠岡市青少年健全育成推進大会において温かい家庭の様子や家族の絆を大切にしている作文を堂々と発表し、参加者から大きな拍手をいただきました。

山本さん「勉勵賞」受賞

日々の学習や運動、児童会活動等に熱心かつ前向きに取り組んだことが認められ、PTA連合会から表彰されました。

回顧録 ⑦ 「読書のすすめ」

子どもの頃にしておけばよかったと後悔していることのひとつが読書です。大学生になって、いくらか本を読むようになったものの、それまでは教科書以外の本をほとんど読んだ記憶がありません。大人になってからでも本を読んで知識量を増やすことはできますが、それでも語彙力、理解力、表現力などの力を身に付けていくことは容易なことではないことを、私は経験しています。今でも言葉の本当の意味を理解せずに使って、恥をかいていることがしばしばあるのではないかと思います。己の恥だけならまだしも、使い方を誤って相手に不愉快な思いをさせたり、誤解を与えたりしているケースもあるのではないかと心配になることがあります。

しかし、そのことよりも後悔しているのは、子どもの頃にたくさん本を読んでいる人と読んでいない人とは感性において大きな差があるのではないかとということです。同じ本を読んでも、大人になって読むと様々な知識や経験がかえって妨げとなって、子どもの頃のように素直に物事を受け止めることができなくなっていることが多いのではないかと思います。私自身の感性が乏しいのは、子どもの頃に本を読まなかったことがその一因ではないかと思っています。感性を育み、磨かれる時機は、純真な子どものころではないかと思っています。きっと、豊かな感性の持ち主は、子どもの頃から多くの本を読み、様々な体験をしている人が多いのではないかと思います。心の成長において読書の果たす役割は大きいことは言うまでもありません。幸い、現在は、伝記・歴史・自然科学など、どの分野も子どもが興味をもって楽しく読むことができるように、漫画本や絵本等にして出版されている本もたくさんあります。

これから冬休みに入ります。家族との触れあいの時間を大切にするとともに、テレビやゲームに費やす時間を少しでも読書の時間にあててほしいと思っています。あまり本を読まない子どもには、楽しい本と出合えるように、図書館や書店に出かけて、興味をもつきっかけを与えてはいかがでしょうか。そして、一人でも多くの子どもの読書の習慣を身につけてほしいと願っています。私は、就職してから今日まで新聞は毎朝一番に読んでいたので、休刊日は何となく落ち着かず、一日のスタートを気分よく切ることができません。習慣とはそういうことではないかと思っています。読書が生活の一部になる子どもが増えることを願っています。